柳井金魚ちょうちんの歴史 ㊥

柳井市社会教育指導員 松島幸夫

【⑧人気が高まった「柳井金魚ちょうちん」】

柳井津で「金魚ちょうちん」が広まった頃は、祭礼のお迎え提灯として、あるいはお盆の精霊送りの提灯として子供たちが持ち歩いたと言い伝えられている。提灯であるから、「金魚ちょうちん」の中に蝋燭を立てて、火を灯していた。提灯は燃えやすいことから風情を楽しみながらも、火災を引き起こすことにならぬかと気懸りであったと思われる。現在では、蝋燭を立てない装飾用の民芸品へと次第に用途が変化している。

JR柳井駅では、毎年夏になると巨大な金魚ちょうちんが吊り下げられて、乗降客の目を楽しませている。また、白壁の街並みの町家軒先には「金魚ちょうちん」がずらりと並べられ、江戸時代からの土蔵造りの通りを美しく飾る。川縁や街路脇そして空き地には、竿灯形やトンネル形に枠を組んでおびただしい数の金魚ちょうちんが吊り下げられて、町は華やかに彩られる。

柳井では、お盆の帰省客の増加に合わせて、「金魚ちょうちん祭り」を開催している。総数約4000個の「金魚ちょうちん」に囲まれて、祭りは行われる。街路では、山車に乗せた大きな金魚を引き回し、交差点ではくるくると回転をさせる。尾ひれが宙を舞い、勇壮な熱気に圧倒される。山車を取り囲む跳人は、「ラッセーラ・ラッセーラ」の掛け声で勢いよく跳ねる。青森の「ねぷた祭り」を模した趣向である。華麗さと勇壮さが溶け合った祭りは好評を博し、柳井の夏の風物詩である。

圧倒的に迫力ある祭りとするために「金魚ちょうちん」を量産しなければならず、シルバー人材センターや様々な施設の協力を得て作成をしている。今や柳井のシンボルとなった「金魚ちょうちん」を見ることが目的で、カメラを持って来柳する観光客が増え始めたことから、江戸時代からつづく白壁の街並みの軒先には、ほぼ通年「金魚ちょうちん」が吊り下げられるようになった。

柳井のみならず東京などにも進出して、柳井の「金魚ちょうちん」の知名度は高まっている。例えば、スカイツリーや高級ホテルや水族館あるいは納涼船などに「金魚ちょうちん」が飾られるようになった。

また、東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京2019」では、「柳井金魚ちょうちん祭り」の出展ブースが設けられて、多くの来場者に好評を博した。

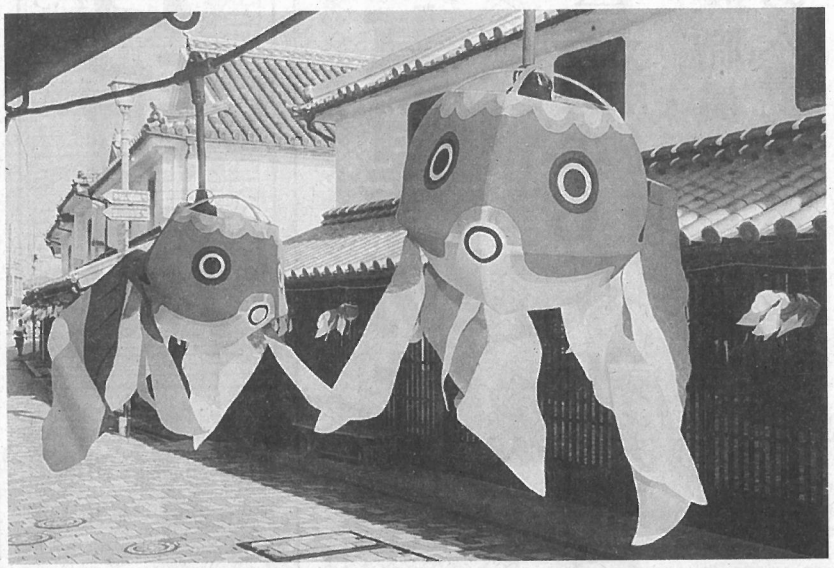
さらには、ロンドンにおけるイベントにも採用され、イギリスの方々に日本文化を楽しんでいただいた。

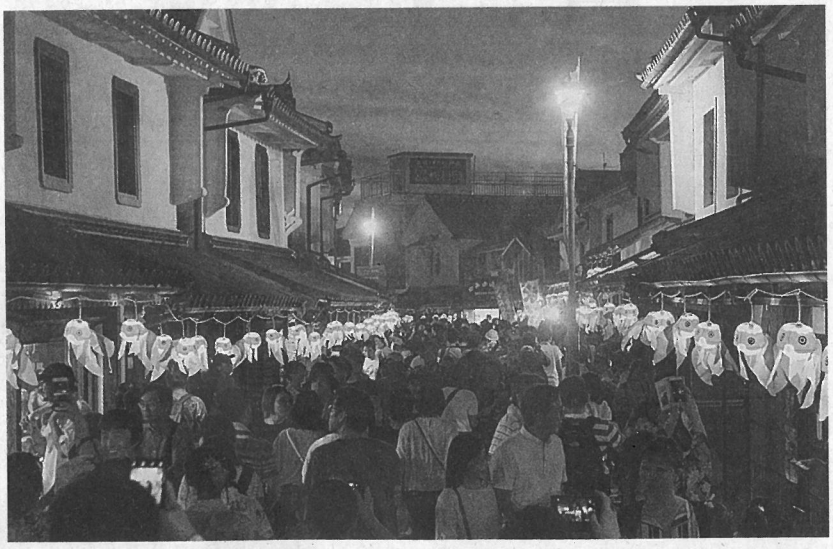
あるいは香港のショッピングモールにおいては、柳井金魚春日祭が開催され、220匹もの金魚ちょうちんが展示をされて、市民を熱狂の渦にまき込んだ。

柳井では伝統玩具である「金魚ちょうちん」をベースにしながらも、新たなニーズに対応しようと、デザイン、色彩、素材に工夫をこらして、趣のやや違った関連商品の製作も試みられている。

竹ひごを組み、和紙を貼り、蝋をひいて着色する「金魚ちょうちん」は1品1品が手づくりであるため、機械による大量生産は不可能である。人気沸騰の現在、需要に供給がおいつかず、しばしば欠品となってご迷惑をかけている状況も生じている。

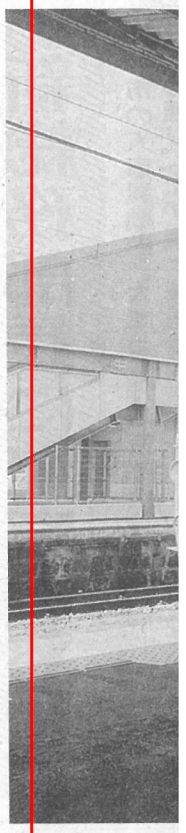
（おわり）





（写真上は白壁の町並みに装飾される金魚ちょうちん。下は8月開催の柳井金魚ちょうちん祭りで電飾される金魚ちょうちん）

総事業費は三者負担で5億1千万円
ホームのかさ上げや点状ブロックの新設も



フラワー はじめて

山口県内の高校生が、県産オリジナルリンドウ「西京シリーズ」を使って作成し

ーアレンジメ

像を紹介する

てフローリス

パネル展が19

柳井市新庄の

フラワーランド

った。4月7日

はじめてフ

トとは、県内の

に県産の花（ユ

ルリンドウ「西

ーズ」とフラ

レンジメント用

配布し、動画を

自由に花をア

た作品を作成

屋さん体験の

今回初めて県

イースタ